

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 26 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>	
1.	事業名：唾液及び歯肉溝貯留液を用いた高校生の歯肉炎罹患実態に関するパイロット調査
2.	申請者名：公益社団法人香川県歯科医師会 会長 豊嶋 健治
3.	実施組織：公益社団法人香川県歯科医師会、国立大学法人徳島大学歯学部予防歯学分野
4.	<p>事業の概要：</p> <p>香川県内の 2 県立高校の 2 年生の希望者を対象に、歯肉溝液中と唾液（洗口吐出液）中の炎症性バイオマーカー検査により、歯肉の炎症状態についてのパイロット調査を行なった。</p>
5.	<p>事業の内容：</p> <p>今回の調査の趣旨について香川県教育委員会に説明し、協力要請を行った。その結果、県下 2 高校の 2 年生の希望者に対し、歯肉の健康状態に関する歯肉溝液と唾液のバイオマーカー検査を行うことになった。調査対象者は男子 54 名、女子 48 名の計 102 名であった。上下顎の左右小臼歯間の唇側歯頸部全体から歯肉溝液を採取した。この後、3 mL の蒸留水を用いて洗口吐出させることで希釈唾液試料を採取した。試料採取は学校内で、歯科医師の監督下に歯科衛生士により実施された。測定項目は、歯肉溝液バイオマーカーとして、<math>\alpha</math>-1 アンチトリプシンとラクトフェリン、唾液バイオマーカーとして遊離ヘモグロビンと乳酸脱水素酵素（LDH）、ヘモグロビンについては、ろ紙法による唾液潜血検査（ペリオスクリーン）と検査ラボでの機器による測定の方法で測定した。口腔保健行動として、歯ブラシとデンタルフロスの使用頻度についての質問票調査を行った。</p>
6.	<p>実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>歯肉溝液中と唾液中の炎症性バイオマーカーの測定値の分布と、各測定項目間の相関関係を分析した。全ての測定項目で正規分布をしていなかった。各測定項目間の相関については、ラクトフェリン、アンチトリプシン、LDH は 3 者間で高い相関が見られた。ヘモグロビンは 2 種の測定法の間で有意な相関がみられたが、他の測定項目との相関が見られなかった。男女間、高校間の比較をしたところ、1 校の男子が他のカテゴリーの者よりも歯肉の状態が良好である傾向が示唆された。口腔保健行動については、歯肉の炎症バイオマーカーとの間に有意な関連性は認められなかった。本年度に実施した方法で、青少年の集団の歯肉の健康状態を調べるために有効であることが確認された。今後の課題として、我が国の一般的な高校生（青少年）の歯肉の炎症性バイオマーカー値の分布を明らかにするために被験者の数をできるだけ増やすことが必要である。従来式の手間と時間が膨大にかかる歯科医師の主観的判断に依存した歯肉炎判定との一致性について調べることは興味深くはあるが、労力と時間、被験者負担を考えた総合的な価値は必ずしも高くないと考える。それよりも自覚症状と口腔保健行動に関する質問票調査項目を追加するなど、多角的に分析したい。</p>